

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 14 日現在

機関番号：30110

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K17272

研究課題名(和文)高齢者介護施設における効果的な虐待予防策の解明

研究課題名(英文)A study of effective measures to prevent the abuse in the care facility for elderly people

研究代表者

松本 望 (MATSUMOTO, Nozomi)

北海道医療大学・看護福祉学部・助教

研究者番号：10758668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、高齢者介護施設における効果的な虐待予防策を明らかにするため、先行研究のレビュー、新聞記事における虐待事例の分析、インタビュー調査、質問紙調査に取り組んだ。研究の結果、施設種別や虐待の種類によって予防策の効果が異なることが明らかとなり、施設特性もふまえ、虐待予防に向けた取り組みを個別に行う必要があることが分かった。また虐待の要因として「利用者要因」「職員要因」「社会・職場環境要因」の三つが複雑に絡み合い、発生していることが確認された。そのため、職員への教育や研修だけでなく、職場の労働環境や人間関係の問題など幅広く取り組む必要があることが実証的に明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者介護施設のニーズが高まっている今、増え続ける施設内虐待の問題解決が急務となっている。本研究では先行研究で十分焦点が当てられてこなかった、施設内虐待の「予防」に着目し、施設種別や虐待の種類によって虐待予防策の効果が異なることなどを実証的に明らかにした。本研究で得られた研究成果は今後、虐待に関する研修プログラムの開発や、他の施設種別における虐待の研究など、将来の研究や実践に活かすことができるものであり、有用な研究成果を得ることができたといえる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to identify the effective measures to prevent the abuse in the care facility for elderly people, by using reviewing literature, analysis of newspaper articles related to abuse, interview survey, questionnaire survey. This study showed that effect of measures to prevent abuse varied according to the type of abuse and the facility, and there is a need to work on individual measures which consider about characteristics of facilities. In addition, it was confirmed that three factors of "resident's factor", "staff's factor" and "social / work environment factor" were complicatedly intertwined and occurred to abuse. Therefore, it is a necessary to work on not only educate and training to staffs, but also improving work place environment, and relationships among staffs by wide range measures.

研究分野：社会福祉学

キーワード：施設内虐待 高齢者介護施設 虐待予防策 介護職員

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19, CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢化の進行に伴い、高齢者介護施設のニーズが高まり続けている今、利用者に対する専門職による虐待（施設内虐待）の問題解決が急務となっている。中には虐待が原因で死亡に至った事例もみられるなど、その内容も極めて深刻だと言わざるを得ない。本来であれば入居者の人権を擁護すべき職員による虐待はあってはならないことであり、高齢者介護施設の需要が高まり続けている今こそ取り組むべき、重要な社会的課題だと言える。

しかし国内外を問わず、高齢者虐待をテーマとした研究の多くが、家庭内での虐待に焦点を当てており、施設内虐待を扱った研究自体が少ない。さらに、最も重要な虐待の「予防」に焦点を当てた実証研究はほとんど見当たらない。

また施設の事業規模や入居者の要介護度などといった施設環境や施設特性の違いは、当然、虐待にも影響を与えていると考えられるが、こうした環境の違いが虐待に与える影響について、先行研究では十分検討されていない。

以上のような背景をふまえた施設内虐待研究を行い、効果的な虐待予防策を実証的に明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は高齢者介護施設の特性もふまえた効果的な虐待予防策の解明を目的に、例年、虐待の発生件数が多い傾向がある「特別養護老人ホーム」「認知症対応型共同生活介護（以下、グループホーム）」「有料老人ホーム」の三つの施設種別を対象に調査を実施し、実証的に虐待予防策の効果を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

各年度で主に行った研究の内容、および方法については以下のとおりである。

【平成 28 年度】

施設内虐待に関する先行研究のレビュー、新聞記事をもとにした虐待事例の収集・分析を行った。先行研究のレビューに関しては、施設内虐待や高齢者分野だけでなく、家庭内の虐待に関する研究や、児童、障害者領域の文献レビューも行った。特に全国調査の調査項目や既存の研修プログラムの内容を整理し、虐待の発生や予防に関連する要因を抽出した。

虐待事例の収集・分析に関しては、新聞記事検索データベースを使用し、施設内虐待に関する新聞記事を集め、虐待の発生・予防に関連する要因を「利用者要因」「職員要因」「社会・職場環境要因」の三つに分類し、先行研究で指摘されている要因と比較・検討した。

【平成 29 年度】

特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホームの三つの施設種別に勤務する介護職員 16 名を対象にインタビュー調査を実施し、分析を行った。インタビューは約 30 分～1 時間程度の半構造化面接調査として実施した。調査では虐待の具体例を複数提示し、虐待の原因だと思われること・虐待を予防するために必要だと思う対策など（虐待予防策）を質問した。インタビュー内容をもとに逐語録を作成し、虐待の発生・予防に関連する記述を抜き出し、内容の類似性をもとにカテゴリー、サブカテゴリーに分類し整理した。

【平成 30 年度】

これまでの研究結果をふまえ、「虐待の実態」「虐待予防策」「虐待の原因」「虐待の意識」「基本属性」の 5 つで構成する質問紙を作成した。作成した質問紙は専門職等を対象にプレ調査を実施し修正した上で、A 県にある全ての特別養護老人ホーム、グループホーム、有料老人ホームに調査を依頼し同意が得られた施設・事業所に配布した（5,307 名分）。回収した 2,311 名分（回収率 43.5%）の質問紙のうち欠損のあったデータを除く 2,149 人分を有効回答として分析に用いた（有効回答率 40.5%）。分析は主に、因子分析、重回帰分析、共分散構造分析を用いて行い、虐待予防策の影響力を施設種別ごとに検証した。

4. 研究成果

1) 研究結果の概要

先行研究のレビュー、虐待事例の分析、インタビュー調査の分析を行った結果、虐待の発生・予防に関する要因は大きく、利用者要因、職員要因、社会・職場環境要因の三つに分類されることがわかった。また、これらの要因は相互に複雑に影響しあっていることが明らかとなった。

さらに質問紙調査の結果、施設種別や虐待の種類によって各要因の影響力が異なっており、施設特性もふまえ虐待予防策を個別に展開していく必要性が示唆された。以下に、利用者要因、職員要因、社会・職場環境要因それぞれについて、各研究より明らかとなった主な結果を示す。

2) 利用者要因

これまでの先行研究では認知症高齢者の行動・心理症状（以下、BPSD）が職員にとってスト

レスとなり、それが虐待の引き金になると指摘されてきたが、虐待事例を分析した結果、BPSDがみられない寝たきりなど自立度が低い高齢者も虐待の被害を受けていることが明らかとなった。さらに、インタビュー調査の結果、抵抗できない・被害を訴えられないなどといった高齢者が有する脆弱性が虐待リスクを高めている可能性が示唆された。

これらの結果をふまえて質問紙調査を分析した結果、「攻撃的な言動」などといったBPSDよりも「脆弱性のある利用者に対する不適切なケア」の方が、虐待に強い影響を与えていることが明らかとなった。したがって、不適切なケアの段階で適切に対処し深刻化を防ぐことが重要だと考えられた。

3) 職員要因

虐待事例の分析やインタビュー調査により抽出された職員要因は、一般的な介護現場にも存在する要因が多く、また「職員の知識・技術」「職員の感情コントロールの問題」などといった要因は職員要因ではあるものの、職場の研修体制や職員の負担感を軽減するための業務改善など、職場全体での取り組みとも深く関係していると考えられた。

質問紙調査の結果からは、職員要因は虐待への影響力が大きい傾向がみられ、特に事業形態が小さく職員数の少ないグループホームでは、その影響力が顕著だった。一方で、職員の経験年数や資格の有無などによる影響力はほとんどみられず、さらに職員の利用者主体の考えや仕事に対する意欲の高さなどといった職員要因には、職場の労働環境や人間関係などが影響を与えていることが分かった。

4) 社会・職場環境要因

社会・職場環境要因については先行研究でも指摘されており、本研究の虐待事例の分析やインタビュー調査においても抽出された。中でも、夜間をはじめとする人の目のない環境が虐待を誘発している可能性が考えられた。

質問紙調査の結果からは、「職場の人間関係」「上司の特性」「負担感のなさ」「職場の虐待への対策」などの社会・職場環境に関する予防策が抽出された。このうち「職場の人間関係」については、必ずしも虐待の予防に結びついていないことが明らかとなり、仲の良さや人間関係への満足感に着目するのではなく、職員同士が慣れ合いの関係になっていないか、指摘すべきことが指摘できているかなど、人間関係の質まで掘り下げて検討する必要があることが分かった。また、特別養護老人ホームのように職員数や利用者数が多い規模の大きい施設では特に、虐待・不適切なケアの早期発見・対応のための取り組みや、未然防止に向けたマニュアルの作成といった「職場の虐待への対策」による有意な予防効果がみられた。

こうした要因は先述したように、職員要因にも影響を与えることから、職場全体での虐待予防に向けた取り組みは極めて重要だと考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

松本望：虐待リスクが高い利用者要因とその対策；養介護施設従事者へのインタビュー調査をもとに。高齢者虐待防止研究，15巻(1)：53-63(2019)。

松本望：養介護施設従事者等による深刻な高齢者虐待の特徴と要因。北海道社会福祉研究，(39)：1-14(2019)。

松本望：不適切ケア予防を意識したマニュアル作り・職員教育のヒント。介護人材，15巻(4)：65-68(2018)。

松本望：虐待予防の対策・取り組みの概要(特集 虐待を防ぐ)。認知症ケア最前線，57巻：74-75(2016)。

松本望：虐待リスクの高い職員への対応の工夫(特集 虐待を防ぐ)。認知症ケア最前線，57巻：89-91(2016)。

〔学会発表〕(計9件)

松本望：高齢者介護施設における効果的な虐待予防策の検討；介護職員へのアンケート調査をもとに。2018年度一般社団法人日本社会福祉学会 関東地域部会研究大会，東京(2019)口頭発表。

松本望：施設内虐待における利用者要因の検討；介護職員へのインタビュー調査をもとに。第15回日本高齢者虐待防止学会泉州大会，大阪(2018)口頭発表。

松本望：施設内虐待における「当事者」からの通報の実態と課題；領域別の比較をもとに。北海道医療大学看護福祉学部学会第14回学術大会，北海道(2017)ポスター発表。

松本望：高齢者に対する家庭内虐待の顕在化の実態と課題；相談・通報者の動向(増加率)に焦点を当てて．第 22 回日本在宅ケア学会学術集会，北海道(2017)ポスター発表．

松本望：認知症と施設内虐待の関連について；虐待の発生・潜在化に焦点を当てて．第 18 回日本認知症ケア学会大会，沖縄(2017)ポスター発表．

松本望：養介護施設従事者等による高齢者虐待が与える社会的影響；新聞報道の分析をもとに．第 13 回日本高齢者虐待防止学会横浜大会，神奈川(2016)口頭発表．

6．研究組織

(1)研究代表者

松本望 (MATSUMOTO, Nozomi)

北海道医療大学・看護福祉学部臨床福祉学科・助教

研究者番号：10758668